

### 福島事故の浪江町長 原発再稼働反対訴え

松江で講演

東京電力福島第1原発事故で全町避難を余儀なくされた福島県浪江町の馬場有町長(67)が17日、松江市で講演し、原発事故の過酷な実態や、今も避難生活を強いられている町民の苦労を踏まえて、原発再稼働の反対を訴えた。

浪江町は発生から5年半



福島第1原発事故での過酷な体験を振り返る福島県浪江町の馬場有町長＝松江市学園南1丁目、くにびきメッセ

馬場町長は事故発生後、国や東京電力から必要な情報を得られず、対応が混乱したと強調。放射能が流れ過ぎた東日本大震災で、震度6強の揺れと高さ15メートルを超える津波に襲われた上、福島第1原発事故によって全町民約2万1千人が県内外へ避難した。現在も年間の積算放射線量が50ミリシーベルトを超える「帰還困難区域」が8割を占め、全町民が帰還できていない。

講演は、島根原発の再稼働反対を求め、署名活動を

ていた方向に多くの町民が避難するのを防げなかったと悔やんだ。

その上で「原発に安全神話などない。私たちと同じ思いをしないよう、深く考えてほしい」と呼び掛け、「福島原発事故の原因究明が終わっていない中で、全国各地の原発を再稼働すべきではない」と結んだ。

展開している市民団体「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」(北川泉代表世話人が企画し、約180人が聴いた。

(平田智士)